



北海道立羽幌病院

総合診療専門研修プログラム 家庭医療専門研修プログラム



専攻医募集案内

(2020年度募集：2021年4月専攻開始)



地域を「みる（診る・看る・観る）」 ことができる総合診療医を養成する

院長の言葉



院長 阿部 昌彦

訪問診療、施設回診、出張診療、離島応援、
地域連携室と共に多職種での前方連携、後方連携。
当院では多くの体験と振り返り、気づき、学びが可能です。
また、医学的には日々のcommon diseaseの振り返りや、時にドクターGの
臨床推論が必要な症例の検討会、ネットでの早朝勉強会など組織での学習と
知識の共有、アップデートを行い集団知を高めることを目標とします。
（厳しくもある）恵まれた自然環境での勤務、北海道職員としての安定した処遇、
福利厚生、医師同士の協調によるライフワークバランスの良さも魅力です。

日本内科学会 総合内科専門医・指導医 総合診療領域特任指導医
日本循環器病学会 循環器専門医・指導医
旭川医科大学臨床教授

指導医

佐々尾 航

(2020年4月現在)

(プログラム責任者)

日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医 日本内科学会 総合内科専門医・指導医
日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
自治医科大学臨床講師（地域担当） 自治医科大学消化器内科非常勤医員

黒鳥 偉作

日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医 日本精神神経科学会精神科専門医

研修目標

- ① 子供から大人までの健康問題に対して、継続的な対応をすることができる
- ② 予防医療から、急性期、回復期、在宅医療、緩和ケアなど幅広い対応ができる
- ③ 地域特有の健康課題を抽出し、それに対するアプローチを考え行動することができる
- ④ 地域包括ケアにおける医療機関・医師としての役割を理解し、実践することができる
- ⑤ 医師として生涯学習に取り組むことができる
- ⑥ 医学生や研修医など、後進の育成に取り組むことができる

研修の特徴

① 急性期医療から回復期医療、在宅医療まで



急性期病院の病院総合医研修（救急・病棟）と、外来・在宅医療を中心とした家庭医療研修をバランスよく行えます。離島診療支援も行います。

② 地域密着型の多職種協働（IPW）が充実



地域密着型病院の院内多職種協働研修を主体に、さらには地域における多職種協働も学ぶことが可能です。

③ 充実した指導体制



総合内科専門医2名・循環器・消化器専門医などが在籍しています。志望する領域に応じた技術（内視鏡や心エコーなど）も修得できます。

④ 病院独自の取組で地域に貢献



健康出前講座やフレイル外来、キッズセミナーをはじめ、病院独自の取組を行っており、健康増進、予防医療など地域に貢献できます。

⑤ 診療と学びのバランスが取れた環境

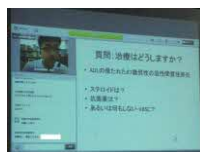
症例は豊富にあっても忙しすぎず、十分な学習の時間があります。症例をじっくりと考え、深めることが可能です。

⑥ 主治医制＋夜間・休日当番制

日中は主治医として担当し、時間外は当直医や待機医師に任せ休むことが可能で、オンとオフがはっきりしています。週末は月2回完全オフです。

研修の1週間

専攻医のふだんの1週間の内容です



テレビ会議を用いたレクチャーや症例共有会
全国600近い施設が参加します。
ときには発表者になることも！？

	月	火	水	木	金	週末
7:30			インターネット学習会（自主参加）			
8:00	救急外来患者・新規入院患者プレゼン（当直の場合）					
8:15	病棟チーム朝回診					
8:30	指導医との入院患者ミニカンファ					
9:00	救急当番 病棟当番	一般外来	一般外来	予約外来	フリー	病棟回診 月1回の当番の時のみ全入院患者の回診を担当します。 また月1回の待機（日曜日の夕方に羽幌に戻る）があります。 当番や待機以外は、原則フリーです。
13:00		外来振り返り	外来振り返り	外来振り返り		
14:00		巡回・訪問診療	病棟業務	一般外来		
15:30			多職種カンファ			
16:30				外来振り返り		
17:00	医局勉強会			宿直		

救急車の対応をします。
病棟での急変対応も行います。



医局内で症例検討、日々の疑問の学習の発表
学会発表の予行などを行います



病院から離れた無医地区の公民館で出張診療します

外来は、
週1コマの予約外来
週2コマの予約外来程度を行います。
外来後には、指導医と振り返ります

入院患者について、院内の多職種でカンファを行います。
退院後の方向性を踏まえ対策を出し合います。

宿直明けは、dutyの業務がないようにします
（医師の人数により業務をお願いすることがあります）



適宜空いた時間で、院長による身体診察指導や検査手技の指導を受けることができます
月に1～2名初期研修医や学生が来院するため、その指導にあたってもらいます

年間予定

月	行事予定
4月	研修開始 新専攻医オリエンテーション
5月	日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 参加
6月	日本プライマリ・ケア連合学会地方会 参加（2年次以降発表）
7月	総合診療専門医試験・家庭医療専門医試験（予定）（修了後） プログラム参加者全体カンファレンス①
9月	研修手帳中間確認
10月	次年度専攻医募集開始（時期は日本専門医機構からの正式通知によります）
11月	北海道プライマリ・ケアフォーラム 参加
12月	キッズセミナー プログラム参加者全体カンファレンス② 日本プライマリ・ケア連合学会次年度学術大会演題公募
3月	院内研修会における発表 研修手帳提出



専門研修の流れ

下記は例になります。研修領域の順番は、自治医大卒業生や地域枠医師、専攻医数などにより異なる場合があります。また医療機関名は例示です。

研修期間：総合診療専門研修のみ…3年間
家庭医療専門研修のみ…3年間
総合診療専門研修＋家庭医療専門研修…4年間（総合診療3年＋家庭医療1年）

① 総合診療専門研修のみ

1年次	総合診療Ⅰ（12ヶ月）		
2年次	内科（12ヶ月）		
3年次	救急（3ヶ月）	小児科（3ヶ月）	総合診療Ⅱ（6ヶ月）

	1年次	2年次	3年次
例①	道立羽幌病院 （総合診療Ⅰ）	道立羽幌病院 （内科）	砂川市立病院 （救急）（小児）（総診Ⅱ）
例②	砂川市立 （救急）（小児）	道立江差 （総診Ⅱ）	留萌市立病院 （内科）
			道立羽幌病院 （総合診療Ⅰ）

上記の領域の研修を、表記の通りの期間行います。
「総合診療Ⅰ」は道立羽幌病院で行い、一部を道立天売診療所で行うことがあります。
同じ地域で長く勤務したい場合は、例①のような勤務で基幹施設の道立羽幌病院で経験できます。
多くの地域を経験したい場合は、例②のような勤務で年度途中で施設を変えながら研修が可能です。

② 総合診療専門研修＋家庭医療専門研修 * 総合診療専門研修開始時に、家庭医療専門研修にも登録が必要

1年次	救急（3ヶ月）	小児科（3ヶ月）	総合診療Ⅱ（6ヶ月）
2年次	内科（12ヶ月）		
3年次	総合診療Ⅰ（12ヶ月）		
4年次	家庭医療Ⅰ（12ヶ月）		

	1年次	2年次	3年次	4年次
例①	砂川市立病院 （救）（小）（総診Ⅱ）	道立羽幌病院 （内科）	道立羽幌病院 （総合診療Ⅰ・家庭医療Ⅰ）	
例②	市立旭川病院 （内科）	砂川市立 （救）（小）	留萌市立 （総診Ⅱ）	道立羽幌病院 （総合診療Ⅰ・家庭医療Ⅰ）
				自由 （選択研修）

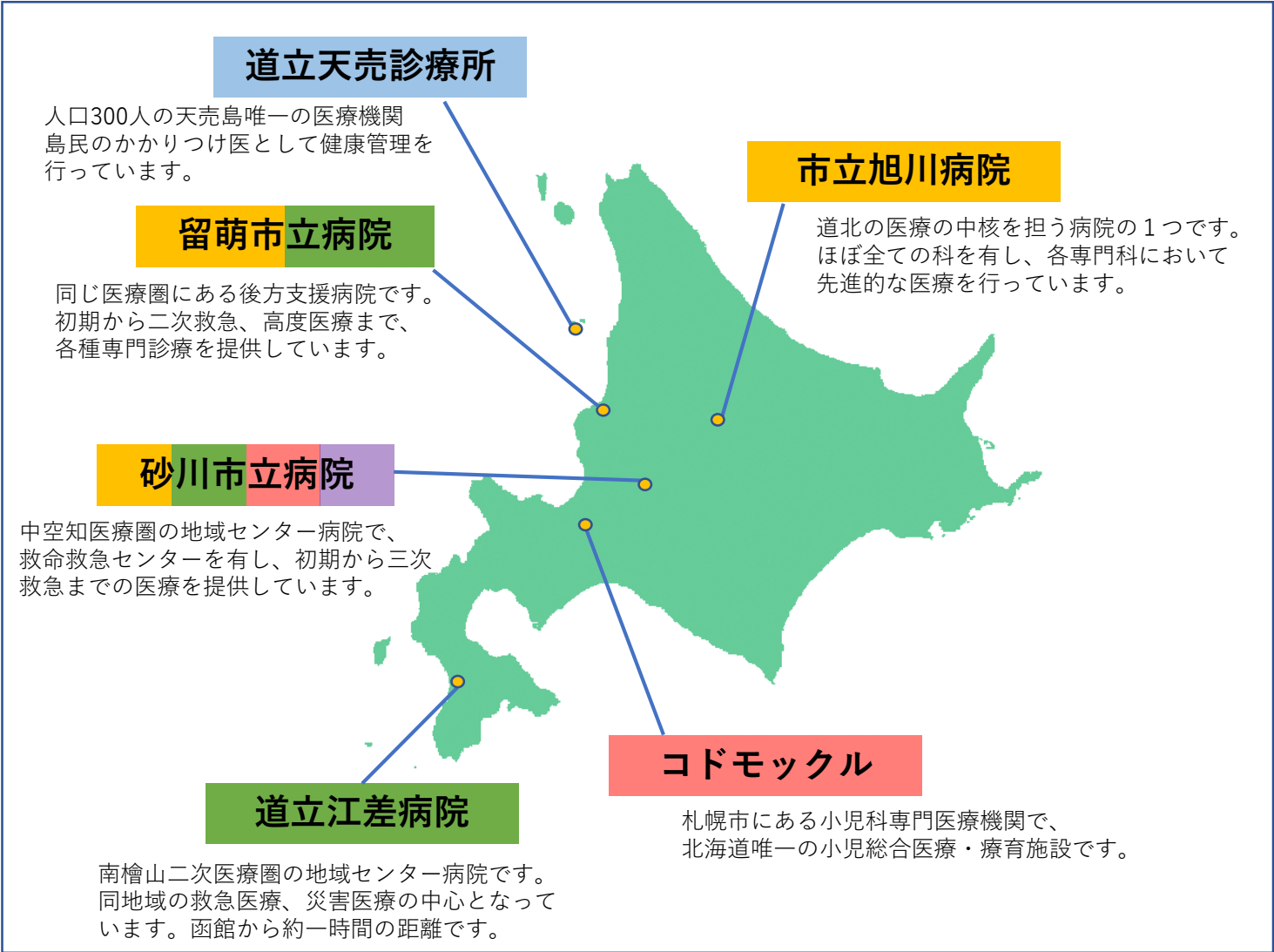
総合診療専門研修をベースに、家庭医療専門研修1年が追加になります。
「総合診療Ⅰ」と「家庭医療Ⅰ」で合計18ヶ月必要で、同一施設で12ヶ月連続して研修が必要です。
また、「総合診療（家庭医療）Ⅰ」と「総合診療（家庭医療）Ⅱ」で合計24ヶ月が必要です。
「総合診療Ⅰ」「家庭医療Ⅰ」は道立羽幌病院で行い、一部を道立天売診療所で行うことがあります。
例①は「総合診療Ⅰ」と「家庭医療Ⅰ」の合計が24ヶ月で、地域総合診療を重視した例です。
例②は修了の要件を満たしつつ、4年次の最後に選択研修を6ヶ月とることができます。

③ 家庭医療専門研修のみ

①とおおむね同様で、研修領域・期間も変わりません。（「総合診療Ⅰ」→「家庭医療Ⅰ」「総合診療Ⅱ」→「家庭医療Ⅱ」）ただし、「総合診療Ⅱ」は道立羽幌病院でも研修が可能で、「小児科」と「救急」以外はすべて道立羽幌病院で行うことが可能です。

連携施設群紹介

当プログラムには、特色ある6ヶ所の連携施設があります。
専攻医の希望を踏まえてローテーションしていきます。



	医療機関名	所在地	総診Ⅰ 家庭Ⅰ	総診Ⅱ 家庭Ⅱ	内科	小児科	救急
基幹	北海道立羽幌病院	羽幌町	○	○*	○		
連携	留萌市立病院	留萌市		○	○		
連携	砂川市立病院	砂川市		○	○	○	○
連携	市立旭川病院	旭川市			○		
連携	北海道立江差病院	江差町		○			
連携	北海道立天売診療所	羽幌町	○				
連携	北海道立子ども総合医療・療育センター (コドモックル)	札幌市				○	

* 家庭医療専門研修プログラムの「家庭医療Ⅱ」に該当し、「総合診療Ⅱ」は入りません

2020年4月現在 今後施設追加や領域の変更を行うことがあります

病院の概要

診療科：（常勤総合診療医による診療）内科、外科、整形外科、小児科
 （出張医による診療）整形外科、耳鼻咽喉科、眼科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科
 精神科、リハビリテーション科

病床数：120床（稼働病床45床：一般病床30床・地域包括ケア病床15床）

診療状況：1日平均患者数（平成30年度）：外来 170.2人、入院 26.8人
 救急受入状況（平成30年度）：救急車 310人、休日・時間外患者総数 1,308人
 平日時間外患者数平均 1.1人/日

診療圏域：4町1村（留萌中部：苫前町、羽幌町、初山別村 留萌北部：遠別町、天塩町）
 圏域人口 17,356人（平成30年1月1日住民基本台帳）

医療機器：CT（64列）、MRI（1.5テスラ）、内視鏡（上下部内視鏡 経鼻内視鏡あり 富士フイルム社）
 超音波装置、骨塩定量検査装置、X線一般撮影装置2台、X線透視装置3台 など



外来



中央処置室



リハビリ室



病棟（デイルーム）



病棟



救急処置室



救急外来診察室



ヘリポート



医局（個人机）



医局

羽幌町の紹介



羽幌町は、北海道の日本海側の北部に位置しています。世界有数の海鳥の繁殖地である天売島と、緑豊かな焼尻島の2つの離島を有しており、国定公園に指定されています。日本有数の漁獲量である甘エビをはじめ、タコやホタテなどの海産物、高級レストランに食材として提供されるサフォークとよばれる焼尻めん羊などが特産としてあります。特産物を活かした、海鮮丼や寿司などのグルメも多くあります。



平日はほぼ時間内で業務が終わるので、夕陽を眺めに行ったり、羽幌町や近隣町村の温泉に入りに行くこともできます。週末に天売島や焼尻島の離島に行くほか、北海道内各地に観光に行くことも十分可能です。



* これらの写真は、当院に研修に来た初期研修医の先生が撮影したものです



みなさんが来るのを
待ってるよ！

羽幌町マスコット
オロ坊

募集要項

【総合診療専門研修（家庭医療専門研修並行研修を含む）】

応募資格：専攻を開始することを希望する年の3月末時点までに

初期臨床研修を修了する見込みであるもの または 修了済みであるもの

募集人数：4名／年

ただし、総合診療専門研修と家庭医療専門研修を並行できる者は3名／年まで

研修期間：3年間

ただし、総合診療専門研修と家庭医療専門研修を並行する場合は4年間

【家庭医療専門研修（単独）】

応募資格：2017年3月までに初期臨床研修を修了済みであるもの

募集人数：3名／年

（総合診療専門研修応募時に同時に家庭医療専門研修を希望した者がいる場合、
それに応じて定員数が変動する）

研修期間：3年間

【各研修共通】

応募方法：北海道立羽幌病院に下記資料を簡易書留で送付ください

①応募申請書

（総合診療）北海道立羽幌病院総合診療専門研修プログラム応募申請書

（家庭医療）北海道立羽幌病院家庭医療専門研修プログラム応募申請書

②履歴書

③医師免許証（コピー）

④臨床研修修了登録証（コピー）または終了見込証明書（原本）

（①は道立羽幌病院ホームページよりダウンロードしてください）

選考方法：北海道立羽幌病院または道立病院局（札幌市）において面接

待遇等

（北海道立羽幌病院勤務の場合）

身分：北海道職員

給与：「北海道病院事業職員の給与の種類および基準に関する条例」等に基づき支給

医師3年目：年収 約1,500万円

道立羽幌病院勤務中は羽幌町医師研究資金制度もあります

研究資金 100万円～（経験年次により異なります）

就業支度金（初年度 2年連続勤務する場合のみ）100万円

休日：土日・祝日（当番の場合あり）、夏季休暇（3日）、冬季職務専念義務免除（2日）

年次有給休暇（20日 採用年は採用月により異なります）

当直：週1回（月4回程度）

学会：1年間に北海道外1回・北海道内1回参加可能です

（連携施設勤務の場合）

連携施設の規定によります。

勤務期間が短期間の場合、北海道職員として派遣となる場合があります



シマエナガ



病棟より日本海を望む（写真左の並んでいる島が、左から天売島、焼尻島 写真右の島が利尻島）

他プログラムにおける専攻研修

当院は、他病院が基幹の「内科」「総合診療」の連携施設でもあります。
他病院のプログラムに所属し、当院での研修を希望される方は、
基幹プログラムの責任者に御相談いただきますようお願いいたします。

内科領域：北海道大学、市立旭川病院、江別市立病院（いずれも連携施設）
総合診療領域：留萌市立病院、北海道家庭医療学センター

初期研修医・学生の研修受け入れ

- ★初期研修「地域医療」
市立旭川病院・旭川赤十字病院・砂川市立病院・江別市立病院
札幌医大・旭川医大・金沢医大
→外来診療を中心に病棟診療まで継続した医療を研修
- ★医学生実習（医学部5年の地域医療実習など）
→病院内の多職種による連携した医療を研修

研修を希望される方は、所属施設に確認をお願いいたします。
上記以外の短期研修や見学も随時受け入れております。



livedoor Blog ブログ



北海道立羽幌病院

〒078-4197 北海道苫前郡羽幌町栄町110

TEL：0164-62-6060 FAX：0164-62-6050 HP：<https://haboro.hospital.hokkaido.jp>

問い合わせ先 メールアドレス：sasao.wataru@pref.hokkaido.lg.jp